



2022年度 開催しました！ まちづくり・組合員活動交流のつどい 知り合っ、つながって、安心のまちづくりをすすめよう

開催日：2023年3月13日(月)13時30分～16時
形式：参集とZoomによるオンライン開催
参加人数・生協：120名 15生協



司会：吉岡泰子さん
(東都生協 組合員理事)

3回目となる今年度は、生協間に限らず、生協と地域、多様・多世代との『つながりづくり』をテーマに、参加者一人ひとりの学びや刺激につながる講演と、事例報告やトークセッションを組み合わせたプログラムで開催しました。

基調講演

ゆるやかなつながりが生まれる参加の場づくり～自然と仲間が増える活動とは～

講師：西川 正さん(特定非営利法人「ハンズオン埼玉」副代表理事、パルシステム埼玉理事・岡山県真庭市立中央図書館 館長)

遊びや対話の生まれる場所の実例、地域の人とのゆるやかなつながりの作り方など様々な事例から大切なポイントを紹介いただきました。講演の中では、オンラインツールを使って、参加者同士の発信を織り交ぜるなど、楽しい工夫もありました。

あたたかい場づくり

「あたたかい場」とは、その集まりが終わったときに参加者が「今日、参加してよかった」「集まってよかった」「また集まりたい」と思えること、主催者が「この場を開いてよかった」と思える場。そして、人がそこに集い、お互いの言葉を聞き合い、やりとりする中で、**なにかをしてみようという気持ち**が身体の内側から湧いてくる。そんな集まりのこと。

あたたかい場は安心から生まれる

オンラインでもリアルでも**輪になってひとりの言葉を聞き合うこと**から。そして「あなたの話を聞いているよ」とうなづくことで相手に応えることができる。

安心は「応え」から生まれる

「お客さん」ではなく「仲間」に

人がつながり、動き出すのはどんな時？どんな場所？何かをしてみようと思える環境とは？

みんなが出せるもの、持っているものを持ち寄ってもらうことで、ゆるやかなつながりがうまれて、お客さんではなく仲間になる。



オンライン名曲喫茶「もちより」

自分の好きな曲、その時のテーマの曲を持ち寄ってみんなで聴く。なぜその曲を選んだか話す。

みんなで持ち寄り



B「シーン」のヤキモ あれ？みんなが話してない？

- ①企画を職員だけでやっている
- ②準備を職員だけでやっている
- ③当日の作業もほとんど職員でやっている

これをしていると… **苦情がくる**

A「わいわい」のヤキモ

ここはあたたかいねえ。

- ①企画を**みんな**でやっている
- ②準備を**みんな**でやっている
- ③当日の作業も**みんな**でやっている

これをしていると… **間柄が生まれる**

一緒に仲間になっていくことが生活協同組合

みんなで協同で何かをしていくことで人がつながっていくことが生協の価値。新たな参加のカタチ、生協を媒介にした人のつながり方。正解はない。みんなでやっていかないといけない。

2005年から17年「みんなで焚き火を囲みたい」人を募り、お芋を送って応援。参加者は焼きたいものを持ち寄る。(お芋提供パルシステム埼玉)

「らくがきタイム」「中学生と大人50人でトーク」などその他楽しい活動の様子はハンズオン埼玉HPをごらんください <https://hands-on-s.org/>

問いはひとつ 答えはそれぞれ！ 「応え」あうなかで 「おもしろい」は生まれる！

ころがあたたまらないと からだはうごかない

「正しい活動」より 「楽しい活動」

責任も分担・作業も分担だと**負担感激増**
責任は共有・作業は分担で
①情報を共有する 互いのしんどさを共有
②みんなで相談して みんなで決める

みんなで



「苦労」と「工夫」とともに！みんなで楽しさをつくって！できない、わからない、助けてが、言えるチームになろう！

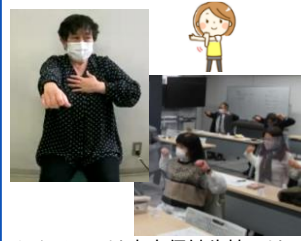
休憩タイムは体操でリフレッシュ！

事例報告とトークセッション

今年度の特徴的な取り組みをご報告いただきました。八王子保健生協・今泉靖徳さんからは、はちせいの次代の担い手確保と新たな組合員の輪づくりとしてスタートした「やさしいまちプロジェクト」での様々なチャレンジ、東京ふれあい医療生協・一石健司さんからは、高齢化率が高く、単身高齢者も多く、スーパーへ行くには距離がある買い物困難地域でコープみらいや地域と協働して取り組んだマルシェの事例報告「はじめての歩～安心して暮らせるまちをめざして」、東京都生協連・池田智子さんからは、地域の生協間のネットワークづくりを通して、地域を知り、地域の様々な団体との関係づくりをめざした「東京の生協のまちづくり活動における新たな自治体での取り組み」を報告しました。西川さんも交えたトークセッションでは、成功体験にとらわれず、新しく入ってきた人たちと苦労と工夫を一緒にしながら、作り替えていくことが活動を継承していくためにも大切、とのお話がありました。



今泉さん 一石さん 池田さん



レクチャーは東京保健生協のリハビリテーション部長古川和代さん

感想交流

講演と報告を聞いての感想交流をグループに分かれて行い、参加者それぞれの気づきや今後の活動のヒントを共有しました。

【アンケートの感想より】
*「苦労と工夫を一緒にする」という言葉が特に印象に残りました。関わる人が一緒にするそのプロセスが大事だということに、気づかされました。*ゆるいつながりの心地よさ。西川さんの活動事例は内容の面白さもさることながら、そこに集う人たちの楽しそうな表情が印象的でした。みんなで何かを持ち寄り場づくり。運営者と参加者(お客さま)ではなく、みんなが当事者となり仲間になってつながる楽しさ。そんな企画をやりたいと思えました。ころが温まって体が動く、応えあうことで生まれる答え、負担感をなくすには、などなど多くを学ぶことができました。

主催：まちづくり・組合員活動交流のつどい実行委員会

コープみらい/東都生協/生活クラブ生協/東京ほくと医療生協/東京保健生協/東京ふれあい医療生協/八王子保健生協/西都保健生協/東京西部保健生協/北多摩中央医療生協/城南保健生協/東京葛飾医療生協/三多摩医療生協/